

## 債権管理実務研究会とは

1982年に発足した株式会社商事法務の年会費制事業で、企業の与信・審査や債権管理・回収を担う実務担当者の教育・研鑽の場です。法制度や裁判動向、税務・会計・財務分析、社内体制など幅広いテーマを扱い、セミナーや会員交流を通じて多角的な実務情報を提供。約200社の会員に対し、人材育成と組織力強化に資する活動を展開しています。

## リスク発見の技術

### — 契約を見据えた法務DDのM&A実務 —

- ▶ 法務デューディリジェンスは、単なる網羅的な調査作業ではなく、「どのリスクを契約で処理し、どのリスクを取引条件や投資判断に反映させるか」を見極めるための前提プロセスです。
- ▶ 実務では、DDの段階で契約条項を見据えた調査設計ができていない場合、重要なリスクが契約に反映されない、あるいは過剰な調査に時間とコストを費やすといった問題が生じがちです。
- ▶ 本講では、M&Aプロセス全体の中で法務DDが果たす役割を整理した上で、契約交渉に直結する観点から「契約で担保できるリスク」と「契約では処理しきれないリスク」を峻別する実務的な思考枠組みを解説します。
- ▶ 法務担当者や関係者が、DD結果を単なる指摘事項の羅列ではなく、契約・価格・ストラクチャーの検討に資する情報として整理・言語化できる力を身につけることを目的とします。

#### 主要講義項目

- ・ M&Aプロセスと法務DDの位置づけ
  - 初期検討・基本合意・最終契約における役割の違い
- ・ 契約条項を見据えたDD項目設計
  - 表明保証・補償・CPIに接続する調査の考え方
- ・ 重要性評価 (materiality) と調査深度の設定
  - どこまで調べるかを定める判断軸と実務上の線引き
- ・ 分野別DDの実務上の着眼点
  - 契約関係／人事労務／知的財産／コンプライアンス・紛争
- ・ 非財務リスク・将来リスクの把握方法
  - ガバナンス不全・依存関係・制度変更リスクの読み取り方
- ・ DD結果の整理とリスク分類
  - 「重大性」「顕在化可能性」「契約処理可能性」による整理手法
- ・ 契約交渉に直結するDDレポートの作成実務
  - 経営層・事業部・外部専門家との共有を前提とした記載方法

#### 講師

賜 保宏 弁護士 (野村総合法律事務所)

野村総合法律事務所パートナー弁護士。2000年東京大学法学部卒業、2000～2003年株式会社日本興業銀行（現株式会社みずほ銀行）、2006年京都大学法科大学院修了、2007年弁護士登録、2009年野村総合法律事務所入所、2016年ミシガン大学ロースクール修了。M&A、コーポレート、企業間訴訟・紛争対応等を中心に、企業法務全般に従事。

開催日時 9月18日(金) 15時～17時

会場 株式会社商事法務 会議室(東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント3階)

視聴期間 1か月(視聴開始日 10月1日(木)から任意の期間)

受講料 【法人申込】29,700円(税込)/1社(同一法人内に限り複数名受講可能)

【個人申込】16,500円(税込)/1名

詳細はホームページをご確認ください。

WEB申込

